

発達障害について

～特に自閉症スペクトラム障害(ASD)と
注意欠如多動性障害(ADHD)について～

よこうちクリニック
横内 敏郎

医療法人 横畠会
よこうちクリニック

ヨコウチクリニック
内科・消化器科
外来・検査・レントゲン
TEL: 03-3901-2070

止

止



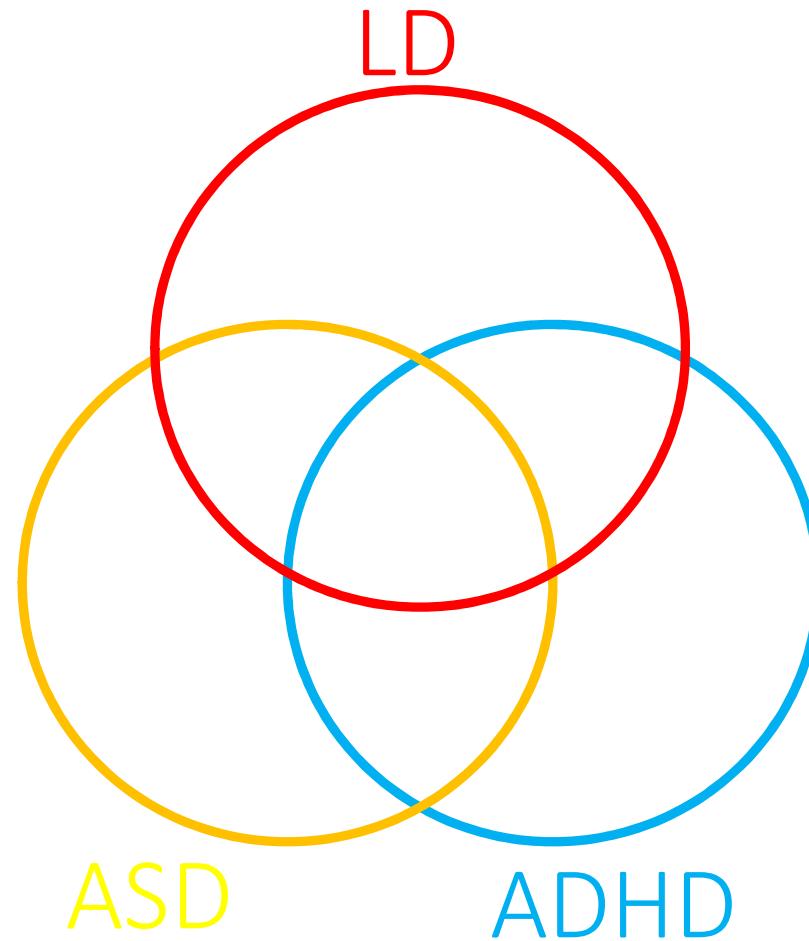
40

170

40

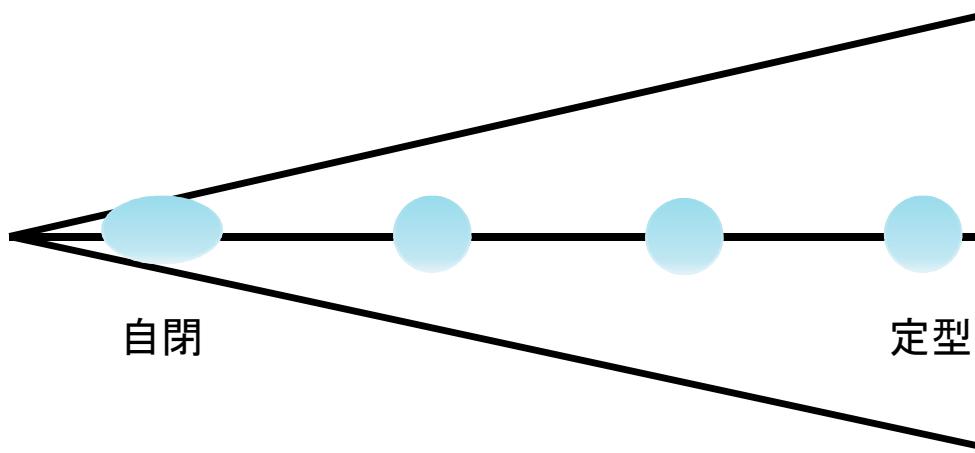
170





●単一の障害は少なく合併例が多い

自閉症スペクトラム障害について



ASD(自閉症スペクトラム障害)の症状 相互的やりとり(対人関係相互的反応)が障害

- ・他者と自然に反応呼吸応する能力の障害
- ・一定不变であることのこだわり
 - 同一性へのこだわり
 - 同じことへの固執
- ・人を避ける孤立、視線をそらす
- ・意思疎通、相互的行動の障害
- ・感覚が過敏になる
- ・会話の一方性
- ・顔の認知が悪い
- ・暗黙のルールが解らない

ASDに対する精神病理

志向性の障害

想像力の障害

言語の障害

志向性の障害

- ・自分や他者に対しすみやかに心を解釈する能力の障害
- ・他者の心を読む→他者の心が解る→他者の志向性がわかる

↓

志向性に気づかない

↓

自己の自律性の障害

- ・その都度、状況にそめあげられる
 - ・キャラクターがコロコロ変わる
 - ・決断・決定することの困難

想像力の貧困

- ・目の前のことでの思考が飽和してしまう
 - ↓
 - ・現前への没入 現場での混乱
 - ・文脈を読めない
 - ・木を見て森を見ず 一事が万事
 - ・思考を反転できないこと
 - ・心を介さない共感は出来るが心を解する
共感の困難

言語の障害

形式的な障害はない

主に局面における

状況的

場面的障害

ADHDとは (注意欠如多動性障害)

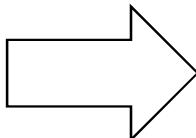
様々な脳神経及び脳内ホルモンの機能障害があり、
この為、神経発達障害をきたし、
不注意、多動衝動性、多弁等の症状が出現する。

成長に伴う多動の変化

—— 目的なく落ち着きない状態は減少する

小児期

- ・過剰に喋る
- ・身体をもじもじと、よじ登る
- ・静かに遊ぶ・課題に取り組めない
- ・あちこち動き身体をそわそわする
- ・走ったり良く考えずに行動する



成人期

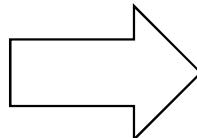
- ・過剰に喋る
- ・内的に落ち着きがない
- ・仕事を過剰に引き受けてしまう
- ・薬やアルコールにより自己治療
- ・貧乏搖すり等目的のない動き

成長に伴う衝動性の変化

—— 成人期の衝動性は深刻になる

小児期

- ・あてられる前に問題に答える
- ・順番が待てない
- ・他人に口を挟む邪魔をする



成人期

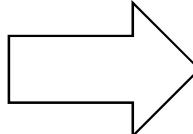
- ・過刺激性、短気
- ・転職が多い
- ・思いつきの旅行
- ・危険な運転・事故
- ・衝動買い
- ・危険なセックス

成長に伴う不注意の変化

——成長と伴にある程度代償される

小児期

- ・注意持続困難
- ・気力散り忘れっぽい
- ・先生の話を聞いたり、課題を終われない
- ・指示通り行動できない
- ・整理整頓が出来ない
- ・物を失くす、置き忘れる



成人期

- ・注意を持続困難
(会議、読書、事務処理)
- ・優先順位を守れず先に延ばす
- ・順序だてて行動できず、整理整頓ができない
- ・業務完遂が困難
- ・計画通りに実行出来ない
- ・失くし物が多い

症状を改善⇒本人の個性となることを目指す

